



講師派遣制度をご利用ください

各機関(本山・宗団・同窓会・宗務支所・高野山真言宗寺院等)さまへの、本学教職員の講師派遣は大学公務として取り扱っております。

【講師派遣お申込み手順】

- 1.高野山大学公式ホームページの[高野山大学の概要]「講師派遣」から、「講師派遣依頼フォーム」より、必要事項(ご希望の講師名、日時、場所、講演テーマ等)を記載の上お申込みください。
- 2.講師との調整がとれ次第、折り返しご連絡いたします。

【注意事項】

- 1.講演料は、講師に直接お支払いください。
- 2.交通費・宿泊費は、本学にて負担します(「高野山大学旅費規程」による)。
- 3.講演が複数日あるいは長時間にわたる場合の条件は、講師と直接調整してください。
- 4.大学を経由せずに、直接講師に依頼する場合は、この申し合わせの対象外とします。
(こちらのQRコードからもアクセスできます。))

<http://www.koyasan-u.ac.jp/info/dispe>



寄付金のお願い

高野山大学では、同窓生をはじめ、皆様からの寄付金を募集しております。これは、現在取り組んでいる、古文書調査や遠隔授業の本格的取組などをはじめ、大学での教育・研究活動の充実と質の向上を目的とした寄付金の募集でございます。

頂戴いたしました寄付金は
 ○大学の設備・備品費などの諸経費 ○地域との連携事業の経費
 ○合理的配慮の支援
 などに活用させていただく予定です。
 高野山大学では、学生や社会に選ばれる大学を目指し、「魅力ある大学づくり」をキーワードにこれからも様々な教育改革に取り組んでまいります。
 皆様におかれましては、高野山大学への引き続きのご支援をこそよりお願い申し上げます。
 この趣旨に賛同していただける方は、お手数をおかけいたしますが、高野山大学総務課(電話0736-56-2921、FAX0736-56-2746)までご連絡ください。
 ご連絡をいただきました方には、大学から、
 ○寄付申込書 ○寄付金用振替用紙 ○返信用封筒
 をお送りさせていただきます。なお寄付金は、一口2,000円以上とさせていただきます。
 皆様のご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

【ご注意】

今回の学報に同封しております振替用紙は、同窓会費の振替にのみご利用下さい。

2026年度 入学者選抜概要(2025年内の日程)

選抜(入試)日程(密教学科・別科)

※合格発表は本人宛郵送と本学にて掲示(10:00)。

試験種別	出願期間	試験日	合格発表
総合型選抜Ⅰ期(一般・寺院後継者)	9月12日(金)～10月6日(月)消印有効 事前説明会6/26(木)～9/25(木)まで	10月18日(土)	11月4日(火)
総合型選抜Ⅰ期(書道)			
総合型選抜Ⅱ期(一般・寺院後継者)	11月6日(木)～11月23日(日)消印有効 事前説明会10/3(金)～11/13(木)	12月6日(土)	12月11日(木)
総合型選抜Ⅱ期(書道)			
学校推薦型選抜(併設校)	11月1日(土)～11月14日(金)必着	11月22日(土)	12月1日(月)
学校推薦型選抜(指定校)			
社会人選抜Ⅰ期	9月12日(金)～10月6日(月)消印有効	10月18日(土)	11月4日(火)
編入学選抜Ⅰ期	11月6日(木)～11月23日(日)消印有効	12月6日(土)	12月11日(木)
社会人編入学選抜Ⅰ期	11月6日(木)～11月23日(日)消印有効	12月6日(土)	12月11日(木)
留学生選抜Ⅰ期/留学生編入学選抜Ⅰ期	11月6日(木)～11月23日(日)消印有効	12月6日(土)	12月11日(木)
別科選抜Ⅰ期 密教専修コース	11月6日(木)～11月23日(日)消印有効	12月6日(土)	12月11日(木)

大学院選抜日程 ※大学院は密教学専攻、仏教学専攻

通学制	出願期間	試験日	合格発表
大学院選抜Ⅰ期 修士課程(博士前期課程コース・ 通信教育課程社会人コース・僧侶 コース) 博士後期課程	8月22日(金)～9月12日(金) 消印有効	9月20日(土)	9月26日(金)

試験の詳細は大学ホームページから)



花ひらく1年のはじまり

高野山大学

92



学長就任のご挨拶

—生かした生かされるいのち—

高野山大学は1886年(明治19年)に創設され、来年で創立140周年、大学として認可されてから100年の節目の年を迎えます。



高野山大学 学長
高岡 潤慶

本学の教育理念は「いのち・文化・創造」であり、すべての存在に共通する「いのち」を取り上げ、日々の研究活動、学修活動、社会的実践活動を行っています。世界遺産の高野山において1200年にわたる伝統と文化の中で育まれた「いのち」のあり様を振り返り、それぞれの時代の時代の中で新たに「いのち」のあり様を創造し、活かしていくことが本学の目指す教育です。高野山真言宗のスローガンである「生かすいのち」とは、我々の「いのち」は周囲のあらゆる存在によって生かされた存在であることを知り、それらのご縁をいただいた周囲の存在に対してお役にたてるよう考え、行動をとることが「自らのいのち」を活かすことになることを示しています。

自らのいのちを活かすためには、弘法大師空海が学んだ密教の教えである「あらゆる存在が本来持っている価値を見出す目を育てる」ことが大切です。様々な社会格差が拡がり、その格差を縮める二つの方策として多様性という言葉をよく耳にするようになりました。真の多様性を身につけるためには、自分だけの価値判断で行動するのではなく、地球規模の視点に立つてあらゆる価値を測ることができる多彩な感性のものを身につけて行動することが大切です。

現在、地球上には約180万種の生物が存在しており、太古よりそれぞれが環境に適合しながらいのちの営みを続けています。我々人間もそれらの生物の一種ですが、人間の最大の問題点は、そのほとんどにおいて人間中心の物の見方、感じ方になってしまっていることです。科学技術が謳歌する現代社会において変わるこのない「いのち」の営みを弘法大師空海の視座で見つめていくことでいのちの本質が見えてきます。

副学長就任のご挨拶

—高野山大学として目指すもの—



高野山大学 副学長
土居 夏樹

このたび、副学長を拝命いたしました土居夏樹と申します。これまで密教学科主任として、密教学科の運営に携わってまいりました。今年度から松長学長の方針により副学長一名体制となり、文学部全体の運営にも関わることとなりました。

令和3年に開設した教育学科は、残念ながら募集停止が決定しました。しかし、募集停止後も教育学科を選んでくれた学生たちがそれぞれの道へ進むまでその教育と指導に責任を持たなければならぬと考えております。

また、密教学科もさらなる改革が求められています。令和5年に設置した密教文化コース(遠隔授業を中心とする社会人編入コース)が功を奏し、令和7年度からは定員が増加することとなりました。これを維持するためには、教育サービスのさらなる向上が必要ですが、それ以上に重要なのは、高野山に位置する教育・研究機関としての特色を打ち出すことだと考えています。具体的には、①インド・チベット・中国などにおける密教の形成と展開の研究、②中院流の形成と展開を含む高野山学道史の研究、③高野山に蓄積された文化財の調査・研究を、本学の学びの中核となる弘法大師研究と連携させることで、高野山大学ならではのカリキュラムを構築することです。それこそが、これからの密教学科、そして高野山大学に課せられた使命であると実感しています。

若輩者ではございますが、教職員で協力しながら、松長学長の下、高野山大学が目指すべきものの実現に向け、尽力してまいります。皆様のご支援とご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

法人本部長就任のご挨拶



高野山学園 法人本部長
高岡 隆真

この度、法人本部長を拝命いたしました高岡隆真と申します。高野山大学には18歳で入学後、学部・大学院・研究所助手と十数年に亘りお世話になって参りました。斯様に思い出深い学舎ですので、大学、学園、ひいては宗門に恩返しができるよう微力を尽くしたいと存じます。何卒よろしくご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

さて急速かつ複雑な変化の中にある現代において、大学には教育と研究という従来の柱に加え社会全体の発展に貢献するという新たな役割が求められています。ことにデジタル技術を生かした教育DXの推進が不可欠とされる中、本学においてはすでにオンライン受講を主体とする密教文化コースがスタートしており、仏教に興味を持つ幅広い層に多様な学習機会の提供を実現しています。これは同時に社会人の学び直しの機会を拡充し、生涯を通じてキャリア形成にも資するものであり、好評を博しております。しかしながらまだまだ知名度としては低く、真言宗寺院の檀信徒の皆様さえも殆ど存じではないという現状もございます。まずは本学において培われてきた強みを活かして内容の充実を図るとともに、認知度向上を心がけることが不可欠と存じます。またひいては宗学連携を促進して地域に還元すること、法人としての基盤を整備しガバナンス強化を通じて持続可能な学園経営を目指すこと、教育研究環境の整備を推進することを軸として、学園が社会からの期待に応え、持続的に発展していけるようささやかながら貢献できたらと存じます。

一方で今はまだ己を省みるに全く何者でもなく、力不足を恥じるばかりです。偉大な先人や恩師の姿に学びつつ、本学の誇る教授陣をはじめ教職員の皆様を頼りとして、一歩ずつ歩む所存です。各位のご協力を切にお願い申し上げます。

大学院委員長就任のご挨拶



高野山大学 大学院委員長
森本 一彦

本年4月より大学院委員長に就任しました。これまで学部での定員充足が課題となっており、通信教育課程の好調もあり、大学院が理事会等で問題となることはありませんでした。学部は、密教学科密教文化コースに社会人が多く集まったことで、収容定員の充足率が9割となりました。一方、大学院は、入学定員が修士課程21名(密教学専攻13名、仏教学専攻8名)に対して、通学生は2、3名が入学するという状態にとどまっております。大きく定員割れが生じています。そこで、令和8年度入試から入学定員を14名(密教学専攻7名、仏教学専攻3名)とすることとします。

社会人を対象とした通信教育課程は、入学定員20名に対して、志望者が多く、例年定員を超えて受け入れをしてきました。それに加えて長期履修制度があり、最大8年間で在籍が可能であることから、在籍者が150名を超える時期もありました。またテキスト学習を中心としていることもあり、教育効果が問題となっていました。遠隔授業を中心とする密教文化コースとの連続性による教育の質の向上を図るために、テキスト学習から遠隔授業を中心とする体制に転換することとしました。それにあわせて、令和8年度入試より入学定員を10名とします。

以上のような定員の変更は、経営面からだけではなく、本学大学院の使命が、優れた若手研究者を育成し、学会に寄与するという面も持っていますが、本学の学生を指導できる後継者の養成という面が重要です。学生がいなければ、大学は成り立ちませんが、指導する教員がいなくても大学は存続しません。密教学と僧侶養成を行う本学は、学外出身の教員だけでは維持していくことはできません。任期期間中は、学外からの入学者も含めて、量と質を高めるべく尽力したいと存じます。

法人本部署務局長就任のご挨拶



高野山学園 法人本部署務局長
内海 周浩

今年度より法人本部署務局長に就任致しました。浅学非才の身でありながら母校である高野山大学、高野山学園、法人本部に奉職するにあたり、改めて身の引き締まる思いでございます。

高野山大学は創設以来高祖弘法大師の教えを学生達に伝えて参りました。来々、真言宗古義大学林として創設されてから140年、大学令が公布された後に大学(旧制)として認可を受けてから100年という節目の年を迎えます。しかしながら現在大学の置かれている状況は私が本学で学んでいた頃と比べ大きく変化してきております。

令和5年度から社会人向けに「密教文化コース」が新設されました。本コースはオンラインで講義を受けるといって現代社会に即した履修方法を取り入れており、幅広い年齢層の方々が真言密教の教えやお大師様の生涯や思想、また高野山の歴史や文化について、働きながらでもライブ配信及びオンデマンドで受講出来るという利点から好評頂いております。

また本学には30万点以上と呼ばれる貴重な蔵書を有する図書館や、より深く密教学・仏教学について研究する密教文化研究所という日本有数の研究施設もあり、教員の皆様が日々研鑽する若き研究者たちの指導に当たっております。小規模ではありますが大変魅力溢れる大学だと自負しております。

令和という新しい時代にあつて多様性という言葉が最近よく聞くようになりましたが、少数者での教育にあつては本学は、一人一人の学生に応じたきめ細かな教育や関わりを大切にしています。ストレス社会と呼ばれる現代だからこそ真言密教の教えやお大師様のお言葉が今改めて必要であり、その事を世に広めていく真言宗の宗門大学として本来あるべき姿を今後目指し、教職員一丸となって尽力していきたいと存じます。引き続き皆様の更なるご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

大阪・関西万博に「利他の蓮華」を展示します

高野山大学、東京大学先端科学技術研究センター、金剛峯寺と和歌山県内の自治体その他企業や団体が連携して制作したオブジェ「利他の蓮華」を大阪・関西万博にて展示します。

このオブジェは利他のこころやいのちの大切さといった人が本来持つ心を未来に受け継ぎ、世界に伝えていくというコンセプトのもと制作。八葉の花弁、法輪、蓮華座からなり、法輪部分を回すことで花弁が開きます。

花弁には高野山の周辺で古くから製造されていた高野紙を用い、折り紙技術によって制作されており、木造の法輪と蓮華座の機構は宮大工やねぶたの技術を活かして設計構築されています。

制作にあたっては和歌山県内の小中学生を対象としたイベントを和歌山市、かつらぎ町、橋本市、高野町で開催。高野紙でできた「願いシート」に子どもたちの願いごとや思いを書いてもらい、それぞれのパーツに貼り付けていきます。最後は高野山にパーツを集め、組み合わせることで「利他の蓮華」を完成させます。また、オブジェに使われた和紙や木材は全て再利用されます。

「利他の蓮華」は7月7日に高野山学びの杜で完成式典を行った後、7月26日から1週間ほど大阪・関西万博内イタリヤ館で、9月30日から10月9日までは関西パビリオン内和歌山ゾーンにて展示されます。また8月2日から9月28日まででは金剛峯寺新別殿でもご覧いただけます。



令和7年春の叙勲 生井先生が受章

令和7年度春の叙勲で、本学名誉教授の生井智紹先生が瑞宝中綬章を受章されました。生井先生は昭和45年に高野山大学文学部仏教学科を卒業。京都大学大学院に進学し、昭和52年に博士後期課程を単位取得退学されました。

本学には昭和50年から非常勤講師として勤務され、昭和52年に助教を経て平成6年に教授に就任。平成15年に学長に就任され、退任後の平成24年に定年退職し、その後名誉教授となりました。

インド仏教や日本密教の分野についての研究と教育活動に努められ、インド仏教に関わる研究では菩提心思想の展開をはじめ、インド後期仏教徒による唯物論批判、インド仏教論理学派などの研究で学術の発展に貢献されました。研究成果は学位請求論文「大乘仏教論書における唯物論批判―仏教論理学派によるBrahmavivāda批判―」にまとめられ、広島大学より博士(文学)の学位を授与されました。この論文は平成8年に「輪廻の論証―仏教論理学派による唯物論批判―」として東方出版より出版されています。また、大乘における密教の形成や空海の思想に与えた華嚴思想の影響などについても研究し、大法輪閣より「密教・自心の探究―菩提心論―」を出版されました。

学会活動では日本密教学会理事、日本印度学仏教学会理事などを務められた他、昭和61年の第32回国際アジア・北アフリカ研究会議、平成16年の日中文化交流シンポジウムなど国際的な学術会議にも参加されています。また平成26年には密教学芸賞を受賞されました。

シンポジウム「生かせいのち〜密教から学ぶ生きる意味と幸せ〜」

シンポジウム「生かせいのち〜密教から学ぶ生きる意味と幸せ〜」を2月16日に難波サテライト教室で開催しました。

密教学に興味がある社会人の方を対象に、本学で学ぶ意義や密教文化コースについて知ってもらうため開催し、会場とオンライン合わせて約120名が参加しました。パネリストとして松長潤慶学長、東京大学先端科学技術研究センターシニアサーチフェローの神崎良平氏と株式会社新日本科学代表取締役会長兼社長の永田良二氏にご登壇いただきました。

松長学長は仏教的な観点から「生かせいのち」の意味について紐解き、神崎氏は知識を得るだけでなく、表現力や創造力など幅広いスキルを養うSTEM教育が求められるようになった昨今の風潮、そして自身が研究の中で至った「人も自然の一部である」とした視座の転回という考えから、永田氏は自身が持つ「欲」と新薬開発や陽子線治療、プータン王国の子どもの栄養失調問題の解消に取り組んだ経験などそれぞれの視点からお話されました。約90分にわたり命の生かし方、幸せの形、現代に必要な弘法大師の教えなど様々なテーマについて意見交換しました。終了後は入学相談会が開かれ、会場、オンラインで多くの方から受験方法や学習内容などについてご相談をいただきました。



令和7年度入学式

令和7年度入学式を4月3日に行いました。来賓として高野山真言宗宗務総長の今川泰伸理事長、高野町の南木芳亮副町長にお越しいただきました。松長学長はあいさつで「高野山大学で過ごす日々は、自分のできることを増やし成長させる時間になります。皆さんがしっかりと学んだ後には、その助けを待っている人がいます。その人たちのために学んでいただきたいと思いたす」と訓示を述べ、新入生を代表して井上陸さんが「弘法大師の綜芸種智の教育理念を旨として、人格の陶冶と学問の探求に努力することを誓います」と宣誓しました。

今年度の入学生は密教学科26名、教育学科4名、編入学(密教学科・教育学科)70名、別科1名、大学院修士課程5名、大学院修士課程通信教育課程5名でした。



令和6年度学位記授与式

令和6年度学位記授与式を3月15日に松下講堂黎明館で挙行了しました。来賓として高野山真言宗管長・金剛峯寺座主の長谷部真道親下、宗務総長の今川泰伸理事長にお越しいただきました。

添田隆昭学長は森嶋外の『高瀬舟』と仏教の五逆罪を取り上げ「罪を犯した人を人は罰することはできません。許すことはできず、人間を越えた存在にしか受け入れることができません。皆さんがもしも過酷な選択を迫られることがあれば、たれかに許してもらわなければならないので、もしもの時は皆さんはご縁があつて高野山大学に来ていたので、もしもの時はぜひ弘法大師様にお祈りしてもらいたいと思いたす」とあいさつしました。卒業生代表の水口竣太さんは教育学科1期生としての学生生活を振り返り「高野山大学での経験を今後の人生の糧として、社会で愛され、役立つ人間になれるよう精進してまいります」と答辞を述べました。

令和6年度の卒業生は密教学科31名、教育学科11名、別科1名、大学院修士課程通信教育課程7名、博士後期課程2名(単位取得退学)で、教育学科からは初めての卒業生となりました。



春季集団加行

春季休業期間中、男子は真別処円通律寺において2月5日から3月31日まで、行者3名(密教学科…3回生1名、教育学科…3回生1名、2回生1名)が、女子は高野山大学大菩提院道場において2月25日から3月29日まで、行者4名(4回生1名、3回生1名、1回生1名、科目等履修生1名)が修行に意専心しました。

【集団得度式】高野山学園の集団得度式が5月23日、総本山金剛峯寺において執り行われました。長谷部真道管長親下に戒師をお務めいただき、受者は本山内局、大寺、高校の職員らに見守られながら剃髪、如法衣の授与の後、戒師より戒を授かり出家しました。本学からは11名(1回生6名、4回3生名、大学院生1名、別科生1名)が得度を受けました。

【受戒】6月11日から6月13日の間、真別処円通律寺において受戒が開壇されました。仲下瑞法 法印御房に戒師をお務めいただき、受者たちは戒を授かりました。本学からは11名(1回生8名、2回生1名、4回生2名)が入壇いたしました。

【教育学科の学生募集を停止します】本学は教育学科の学生募集の停止を決定いたしました。本学では令和3年4月に教育学科を開設し、運営に尽力してまいりました。しかし昨今の教職に対する関心の低下や志望者数の減少などの影響により、定員割れが続くなど厳しい状況が続いております。このような状況を打開するべく、募集活動に全力を挙げて取り組んでまいりましたが、大きく改善するには至らず、検討を重ねた結果、学生募集を停止する決定に至りました。

現在在籍している学生の皆様には卒業まで安心して学業に専念できますよう引き続き充実した教育環境の提供とサポート体制の整備に努めてまいります。また、学費を出資してくださる皆様、及び関係者の皆様にも、丁寧に対応し、信頼にお応えできるよう全力を尽くす所存です。

今回の決定により、皆様にご心配とご迷惑をおかけすることを深くお詫び申し上げますとともに、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

